

# 町民文芸



## 只見短歌会

六月詠草

大塚栄一

指導

娘逝きしが諾<sup>うべな</sup>へ切れず立つ窓辺梅雨の晴れ間の風荒ぶなり

五十嵐夏美

かもしかは雪間の細き冬の芽を幾百食めば腹の満つるか

小倉キミ子

この夏も袖と裾丈詰め直し透析の夫に。パジャマを渡す

新国由紀子

めだかの子産まれしと言ふ若きらに老眼鏡をかけて交はる

馬場 八智

無表情にわが手に痛み注射する医師の横顔睨む<sup>にら</sup>こと見つむ

渡部ゆき子

初孫の給料貰ひし記念にと植ゑし牡丹に黄の花の咲く

関谷登美子

薬草のどくだみ摘みつつ清楚なる花の白きに手元にぶるも

目黒 富子

頬被りとりて温みの未だ残る手拭ひ裂きてトマトを結はふ

渡部ヨリ子

忙しく時過ぎゆけば毎日の予定も終ると我に言ひ聞かす

新国 洋子

夫逝きてはや一周忌遠くより集ひし子らとの話は尽きず

(出詠順)

## 只見俳句会

七月例会

目黒十一

指導

荒し田に野菖蒲の花すくと咲き

リウコ

うかうかと過せば速やし大暑とや

紫陽花を眺めて帰る散歩かな  
梅雨晴れや修学旅行の墓碑参り

信

ハンカチの絵の中にある櫛の森  
村繋ぐ橋の消えゆく夕立かな

順子

立葵霊地にただよう無住寺  
田草とる田面一望人を見ず

恒夫

栗の花ただ黙々と鋏を引く  
一面に青田の色となりけり

都

燧ヶ岳の大眺望や山開  
心地よき耳刀<sup>みみとう</sup>の剃り半夏生

吉児

金婚夫婦箸先はげて冷奴  
食卓は野菜づくしに夏至の朝

一穂

初生りの小玉スイカや薫を敷く  
道沿いにマリーゴールド一直線

修一

万緑や父に似ぬ子の飲みっぷり  
川蝉の声の近くに畑仕事

敦子

御二人の御歳祝い松の芯  
気付いてか吠える番犬草むしる

邦男

考古館出で初蝉の近きかな  
汗の身をベンチに誰も居ぬ公園

レイ